

## (マークス・ハステンブルク 様 講演本文)

こんにちは。まず最初に、海外での緑茶の振興に対してこのように農林水産省から賞をいただき、感謝申し上げます。私は、ドイツ北部にある下堂園インターナショナルのスタッフ全員と、緑茶振興を支援してくださっているお取引先を代表してまいりました。

また、日本のパートナーである、鹿児島株式会社下堂園様に長年にわたりご支援いただき、信頼してくださったことに御礼申し上げます。この長きにわたる日本のパートナーや友人の皆様との関係なくしては、これまでの私たちの仕事は不可能だったでしょう。

特に、下堂園洋さんに感謝申し上げます。下堂園さんにお会いしたのは1991年、ドイツのアヌーガという有機食品の見本市でした。下堂園さんは化学肥料や農薬を使わないでお茶を栽培したい。そして、世界中のお茶愛飲家に高い品質のお茶を提供したいという、私と同じビジョンをお持ちでした。

また、本日こちらにお越しくださっている下堂園恵子さんの多大なるご支援にも感謝申し上げます。お名前を拝借してブランドネームを KEIKO とさせていただいて、ヨーロッパのみならず世界の多くの国で商品のマーケティングをさせていただいています。

少しこれまでの経緯を振り返らせていただくと、1992年、ドイツの有機食品会社を通じて、鹿児島の下堂園から緑茶の輸入を始めました。その後、1997年に、下堂園インターナショナルという会社を設立しました。

ところでドイツに輸入される緑茶の量は目覚ましく増えており、1999年には1992年の60倍に増えています。16倍ではなくて60倍です。また、2006年には、アメリカとカナダで KEIKO ブランドの緑茶の販売を始めました。弊社ではお茶、特に日本茶は日本の国の宝物だと考えています。日本の製茶の名人が世界中に日本茶を提供していることを、世界は喜んでいると思います。

お茶には何か不思議な力があります。まず、すぐれた文化がなければ原材料であるお茶の葉から洗練されたお茶をつくることはできません。また、お茶は受け取ったものをお返ししてくれる存在です。つまり、日常生活でお茶をたしなむ人の文化を高めてくれます。

また、日本の製茶の名人によるお茶は、世界が尊敬する日本の文化のさまざまな側面を想起させてくれます。たとえばどのような日本文化を想起させてくれるかという、美的センスなどです。懐石、生け花、庭園、建築、陶磁品などを想起させてくれます。

一部の外国人には、日本茶の新鮮なグリーンの味わいが強すぎる場合があります。そういったビギナーの舌にも合うような商品を開発しています。たとえば緑茶の入ったチョコレートや緑茶を入れた甘いお菓子など、なるべく多くの方の口に合うかたちで緑茶の洗練された味わいを楽しんでいただきたいと思います。また、緑茶を使った食事のレシピの情報を提供したり、三洋が世界で初めて開発した緑茶エスプレッソマシンを使ったカクテルを新しくつくったりしてい

ます。

最後になりますが、日本茶は本当に宝物だと思います。そして、この宝物を世界のなるべく多くの人に届けるお手伝いができることは幸運ですし、誇りに思います。日本茶はエネルギーを与え、おいしく、健康によく、洗練された文化です。植物にこれ以上、望むことはできないほどです。私の気持ちを皆様にお伝えする機会をいただき、またご清聴いただきありがとうございました。  
(拍手)